

ひとり情シスのIです。

本日は社内 IT インフラの整備も大事という話です。

今日は先ほどまで、この間ディスク交換をしたサーバの再構築をしてきました。2台とも、業務には投入していなかったため、バックアップ等の作業はしておらず、地道に OS から入れて設定しなおしました。クルマだと修理後はそのまま使えますが、PC は OS 復元した後、アプリインストールや各種設定があり、そうはいかないので大変です。

インストールや設定を自動化する WindowsADK というのもありますが、短時間で何十台も同じ設定が必要であれば別ですが、弊社のような規模の会社だと、色々勉強して自動化スクリプトや媒体を作るぐらいなら、実際に入れたほうが速いです。

さて、本題のインフラのお話です。

IT 技術は日進月歩で進んでいるため、昔はお金がかかりすぎて現実的でなかったことが、コストがほとんどかからず実現できるようになったり、逆に、昔は当たり前と思っていたことが、今は陳腐化した方法であることが少なからずあります。

例えば、第20回の時に書いた Cloud Station Drive があります。DropBox のように完全にクラウドに置くには、不安なので、データは社内に置いておきたい、かつ、業務のフォルダはすべての PC 上で自動的に最新の状態に同期するようにしたいという用途にはうってつけです。さらに、設定によっては従来の NAS のように共有フォルダとして見せることもできます。

業務上の利点については、前の繰り返しになるのであまり書きませんが、必要なファイルの最新版が「常に」手元にあることで、その前段階の、最新であることの確認や、サーバ↔PC 間のコピーが不要になる点が大きいです。

あとは、離れた場所の PC をメンテナンスするときに、リモートデスクトップ機能を活用しています。これも、I が入社したときは殆ど使われていませんでした。ここ2年で導入した PC には、設定でリモートデスクトップ接続を有効にしてあるため、例えば札幌支店にある PC に新しいソフトをインストールしたい、あるいは、設定を変更したいときは、実際に札幌支店に行かずとも、釧路本社からリモートで乗り込んで作業をすることがあります。

以前は、実際人が行っていたとか、マシンを宅急便で送っていたとか、色々手間がかかっていましたが、これにより大半の設定は、動かさなくても置いたままでできるようになったため、効率よくメンテナンス作業ができるようになりました。

このほかにもライセンス管理等、色々改善は行ってますが、それらは追々説明したいと思います。

それでは、また明日。(I)